

ウイラブル

エドゥアルド・カック

《ウイラブル》は、実際に生息する鳥類であると同時に神話上の鳥でもあります。アマゾンの熱帯雨林でウイラブルは、年にたった一度、巣を作る時にしか歌を歌わず、それも早朝のほんの5分間から10分間という僅かな時間に限られています。また神話では、ウイラブルの歌はあまりに美しいので、ウイラブルが歌う時には他の鳥たちは鳴くのを止めて、ウイラブルの歌に聴き惚れると伝えられています。さらに別の神話では、人間は死ぬとウイラブルとなり、静かな森の中で魅惑的な新たな生命として生まれ変わるとされています。ウイラブルは神話と現実の双方において、稀有な美しさの象徴なのです。

私はこの《ウイラブル》物語に、そしてその現実と神話という二重性に、ずっと魅惑されてきました。インタラクティブなテレプレゼンスによる《ウイラブル》のインスタレーションによって、私は私自身のウイラブルの神話を創ってみようと思います。この私の個人的な神話の中では、《ウイラブル》は遠い場所にいる人々の心に乗せて空を飛び魚です。ウイラブルの森にはピン(PING)・バードが住み、ネットワークの通信量の増減に応じて歌を歌います。ウイラブルの魂は仮想の魚に乗り移り、仮想空間で飛びながら他の仮想魚とインタラクティブに反応します。このようにすることで、ウイラブルはネットワークの通信量を増やすことに貢献し、ピン・バードはより頻繁に歌うこととなります。

私は《ウイラブル》で、ウイラブルの現実と神話という二重性を、一時に遠隔地と現在地を二重に体験すること、また、物理的であると同時に仮想的な二重体験というものに置き換えて、私家版の神話として創りなおしています。この空飛ぶ遠隔操作ロボットは、展示スペース内と Web 上の、二つのインターフェースから操作出来ます。展示スペースに置かれたインターフェースは魚の形をしていて、持って自由に動かすことが出来ます。観客がそれらを動かすと、それに応じてウイラブルは展示スペース内を動き回ります。展示スペース内の本物のテレロボット魚の動きはソナー・ユニットによって追跡され、三次元のデータとして VRML^{※1)} サーバーに送られます。その結果、仮想空間上のテレロボット魚のアバター(化身)もそのデータに応じて仮想空間内を動き回ることになります。テレロボット魚の視点から撮影されるビデオは、リアルタイムで Web 上にストリーム配信^{※2)} されます。

遠隔地の参加者が VRML 空間にログインすると、展示スペースを浮遊する飛行魚からウイラブルの歌が展示スペースと Web 上で流され、遠隔地で参加者がオンラインになったことがはっきりと分かるようになっていきます。展示スペースにおける VRML のインターフェースによって、参加者は自分のウイラブルのアバター(化身)を仮想空間に飛ばすことができ、リアルタイムチャットやその動きを通じて、他のアバターとインタラクティブに反応することが出来ます。展示スペースの VRML インターフェースも魚の形をしていて、持って自由に動かせるようになっていきます。

このテレロボット魚は、色鮮やかな鳥ピン(PING)・バードの住んでいる森の上を浮遊しています。ピン・バードは、熱帯雨林のあるアマゾン地域に地理的に位置するサーバに向けて PING コマンドを送るテレロボット鳥です。ピン・バードはグローバルネットワークにおける通信量の増減にしたがって、実際にアマゾンに生息する鳥の歌を歌います。PING コマンドとは、パケット^{※3)}を指定されたアドレスに送りその応答を待つという操作を行うもので、送信から応答が戻ってくるまでの往復時間をモニターし、インターネット上の通信量をリアルタイムに直接測定するために用いられます。これを用いて、インタラクティブなテレプレゼンス・インスタレーション《ウイラブル》では、インターネット上の通信量が増大するのにしたがって、より多く鳥が歌うようになっていきます。

《ウイラブル》はインターネット上で、テレプレゼンスと仮想現実を融合させています。仮想空間は、VRML の森に6匹の魚といった具合に、実際に参加者が入り視覚的な体験を出来る完全にデジタルな空間となっています。テレプレゼンスは、遠く隔たった実在する環境への入り口を提供し、この作品に即して言えば、“アマゾンの森”のような離れた場所へのアクセスを可能にしてくれます。この森は20本以上の人工の木々によって成り立っており、そのてっぺんには、色鮮やかなピン・バードがとまっています。インターネットは相互に接続された地球上のネットワークのシステムで、様々な情報が絶え間なく流れつづけています。この情報の流れが、展示スペースのピン・バードの歌のパターンの変化によって表現されます。

展示スペースの森の内部は三つのエリアからできており、ひとつは飛行魚の視点から見たものをリアルタイムでビデオ放映し(フル・フレーム、30 フレーム/秒)、参加者がウイラブルの飛行をリアルタイムに操作出来るエリア。次に、参加者が実際に入って他の参加者のアバターと出会うことのできる VRML 空間を映し出すエリア。そして三つめが木陰の小道に沿って後ろの方に置いてあるベンチです。観客はこのベンチに座ってひと休みし、ウイラブルとピン・バードのアマゾンの歌を楽しむことが出来るでしょう。

※1) 三次元の仮想空間を、インターネット上で生成するための言語仕様のこと。

※2) 映像やオーディオのデータをダウンロードすることなしに、Web 上でユーザーが受け取りながらリアルタイムに再生する技術。

※3) デジタルデータを転送する際に、データを一定のサイズに分割し、小包のように送り先や発信もとなどのタグデータ(ヘッダ)を付けたもの。ちなみにパケットとは小包を意味する英単語。